

アンケートの主な自由意見

●シンボル性

＜シンボル性を求める意見＞

- ・本庁舎は川崎市の顔であり、特徴的でシンボリックな建物とすることにより、新しい川崎のランドマークとして市民に愛されるとともに、他都市に自慢できるようなイメージアップに繋がる建物にすべきである。

＜シンボル性を求めない意見＞

- ・意匠やデザインにこだわったり、華美な庁舎としたりすることによって、市のシンボルにする必要はない。

●現在の本庁舎の外観の継承

＜外観の継承を求める意見＞

- ・現在の庁舎は76年間市民に親しまれ、川崎の歴史を刻んできた建物であり、特に時計塔は、戦時中は空襲警報を発して川崎を守り、戦後は、市民が焼け残った時計台を見上げて復興に努力するなど、現在の発展に繋がった街のシンボルである。また、現庁舎はレトロなデザインがおしゃれでもあり、近代的なビルにないぬくもり感や親しみがある。このため、時計塔を含む現庁舎正面の歴史的な外観を、川崎のシンボルとして復元すべきである。

＜外観の継承を求めない意見＞

- ・現在の本庁舎は、あえて復元にこだわるほどの特徴があるとは思えないので、現在の外観にとらわれることなく、自由な発想のデザインとすべきである。

●市街地活性化・賑わい空間

- ・低層階にレストランや憩いの場を設けたり、本庁舎前を広場にして、イベントなどに使えるようにするなど、市民に開放され、市民が集える空間を作るべきである。
- ・街の賑わいを創出し、街が活性化されるようなデザイン性の高い空間を作るべきである。

●分散化の解消

- ・庁舎が分散している現在の状況は非効率で余分なコストが発生しているため、高層の新庁舎に全部局を集約することにより、効率化を図るとともに、市民にとって分かりやすく利便性のよい建物にすべきである。

●耐震性・災害対応

- ・高い耐震性・安全性を備えるとともに、非常時の業務継続性が確保されているなど、災害時に活動拠点になりうる建物にすべきである。

●環境配慮

- ・最新の環境技術、再生エネルギーを活用し、温室効果ガス排出量の削減を行うなど環境に配慮した建物にすべきである。

●ライフサイクルコスト・長寿命化

- ・メンテナンスがしやすく、ランニングコストが抑えられるよう配慮し、長い年月使えるように、耐久性の高い庁舎にするべきである。

●バリアフリー

- ・車椅子やベビーカー等で移動がしやすく、多目的トイレや授乳室が使いやすいなどバリアフリーに配慮された庁舎にすべきである。

●経済性

- ・財源は市民の税金であり、経費を削減し、コストを抑えることを最優先すべきである。

●建替反対

- ・超高層建築物は反対。本庁舎の建替えは不要。税金の無駄遣い。

●その他

- ・駐車場を十分確保するべきである。
- ・企業等に空いたスペースを貸して収益を上げられるような庁舎にすべきである。